

第6期長期計画に対する意見

市議会公明党

1、防災対策 ハード・ソフトの両面からの対策が必要と考える

ハード面：ライフラインの強靱化や災害対応の施設整備も課題が残されていると考える。（例えば避難所となる公共施設の空調や災害時用トイレの拡充など）

ソフト面：地域防災会や避難所運営組織の立ち上げによって個々の取り組みも進んでいる一方で、いざという時、具体的にどんな行動をとればよいかという点では課題が多い。また、外国人対応の強化も進めるべきと考える。

また、限られた人が複数の役割を担っており、対応の困難さも解消していかなくてはならない。

2、地域コミュニティのあり方

これまで培ってきたコミュニティのあり方が社会の変化に伴って見直していく必要に迫られていると考える。

世代や新旧を問わず、多くの人に参加できるような仕組みづくりが求められると同時に、行政の関り方も考え直すべきと考える。

3、3 駅圏の課題

吉祥寺地域：南口再開発の方向性をどのように決めて進めていくのか。行政側と地域側の課題認識を突き合わせる中で、具体的な協議の場を設け、相互理解を深めながら進めてはどうかと考える。

三鷹地域：未利用地・低利用地の活用をふまえ、これからのまちの姿をどのように作り上げていくのか具体策を検討する必要があると考える。

武蔵境地域：南北一体のまちづくり

4、学校建て替え

老朽化している学校施設の建て替えが大きな課題である。福祉・防災などの観点から複合化を視野に入れた施設更新の基本方針を構築すべきと考える。

5、福祉施設の拡充

本市の地域特性として民間事業者によるグループホーム事業や福祉作業所などの設置が困難な状況である。しかし障害を抱えている市民にとっては、住み慣れた地域での施設拡充が必要となっている。場所の選定や地域理解など課題は多いが、拡充に向けた取り組みを求めたい。

6、武蔵野版ネウボラの推進

現在、保健センター、子ども家庭支援センター、ハビット、教育支援センターが個々の対応をしており、連携もしているとの認識だが、中心拠点となる場所の設置と具体的な取り組みの推進を求めたい。

7、SSW の対応強化

SC、SSW は非常勤であり、学校に常駐しておらず、子ども達や地域との関係性も薄いと考える。これでは現在求められているような、子どもの悩みに寄り添うことはできないのではないかと。まずは、中学校区単位で SC,SSW の常駐化をめざし、不登校対策などの中心となる対応を願いたい。

SC は、週 1 回の勤務であるが、細やかでかつ適切な対応が取れる体制強化を進めるべきと考える。

8、支え合いのまちづくり

社会の高齢化にともない、支える側も支えられる側も高齢となり、支え合いの社会づくりが求められている。本市ではいきいきサロンや地域支え合いポイント制度の創設や、地域包括人材育成センターの開設などを通して、支え合いの社会づくりに努めているが、さらなる推進が必要と考える。また昨今では、介護予防の取り組みとしてフレイル予防も注目を集めている。

支えられる側、サービスを受ける側は担い手がどのような立場であるかは関係なく受け止めている。様々な担い手側の連携も強化しつつ、支え合いの社会構築に向けた取り組みを求める。